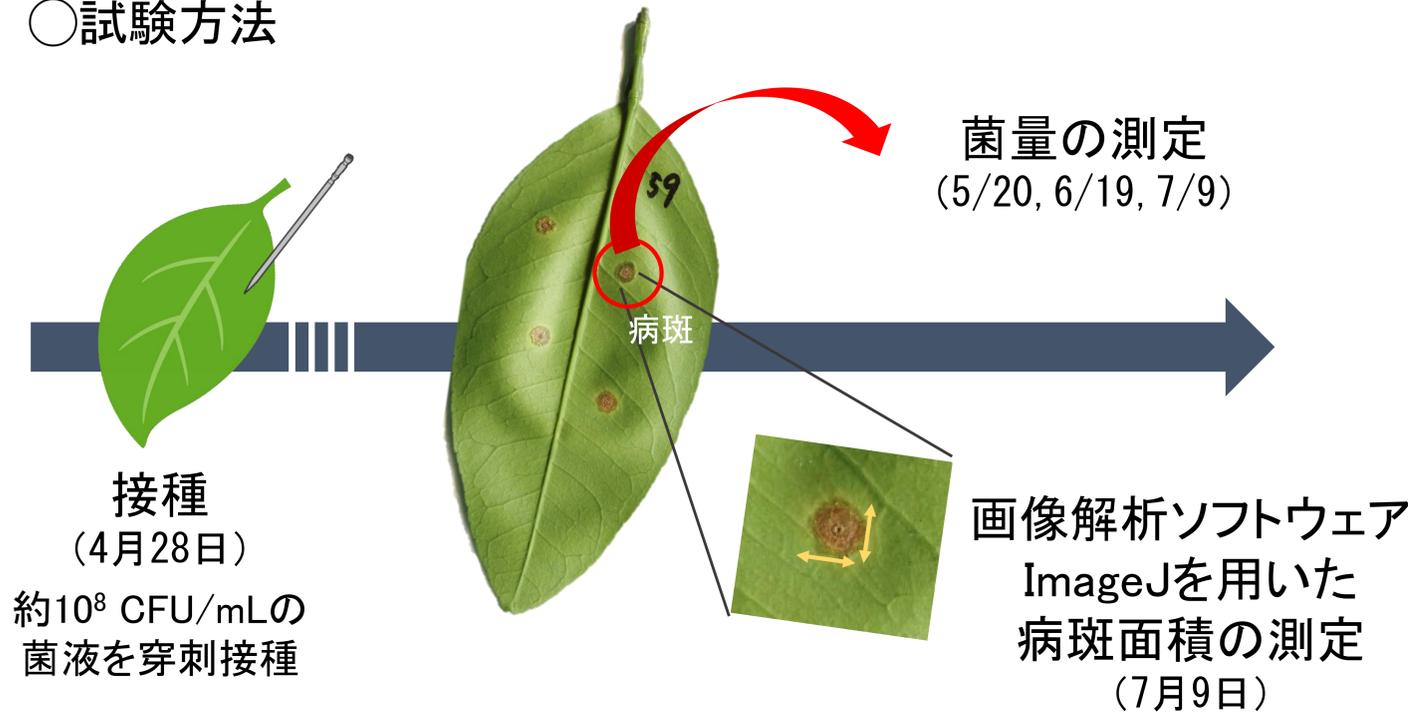


# 病斑の菌量と大きさからのかんきつかいよう病抵抗性評価の検討

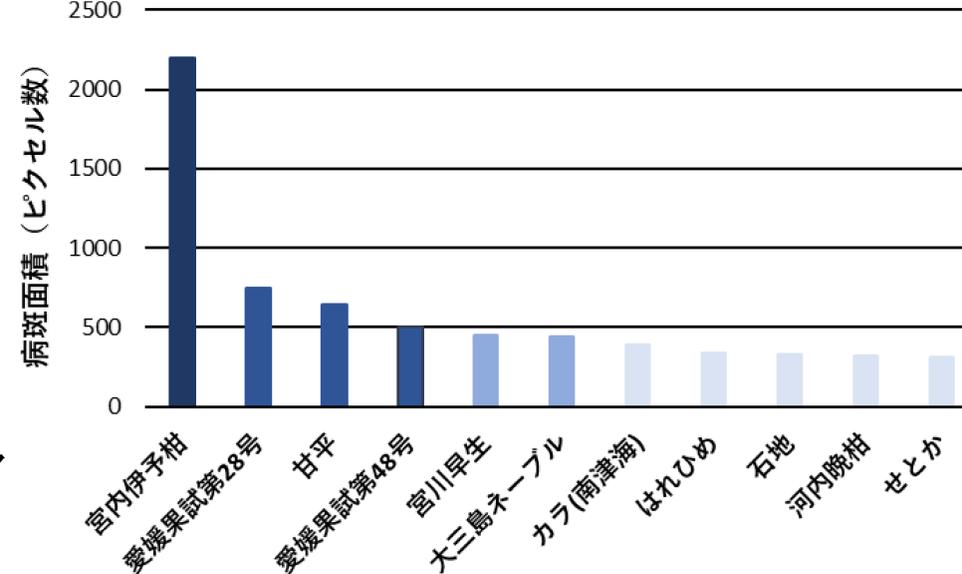
県オリジナル品種の導入が進んでいるが、温州みかんに比べてかんきつかいよう病の被害が大きく問題となっている。栽培上のリスクを把握するためには、品種ごとのかいよう病抵抗性の評価が必要である。そこで、病斑の大きさと菌量から品種の抵抗性について検討した。

## ○試験方法



供試品種： 宮川早生 伊予柑 愛媛果試第28号  
石地 河内晩柑 甘平  
カラマンダリン ネーブル 愛媛果試第48号  
はれひめ せとか (計11品種)

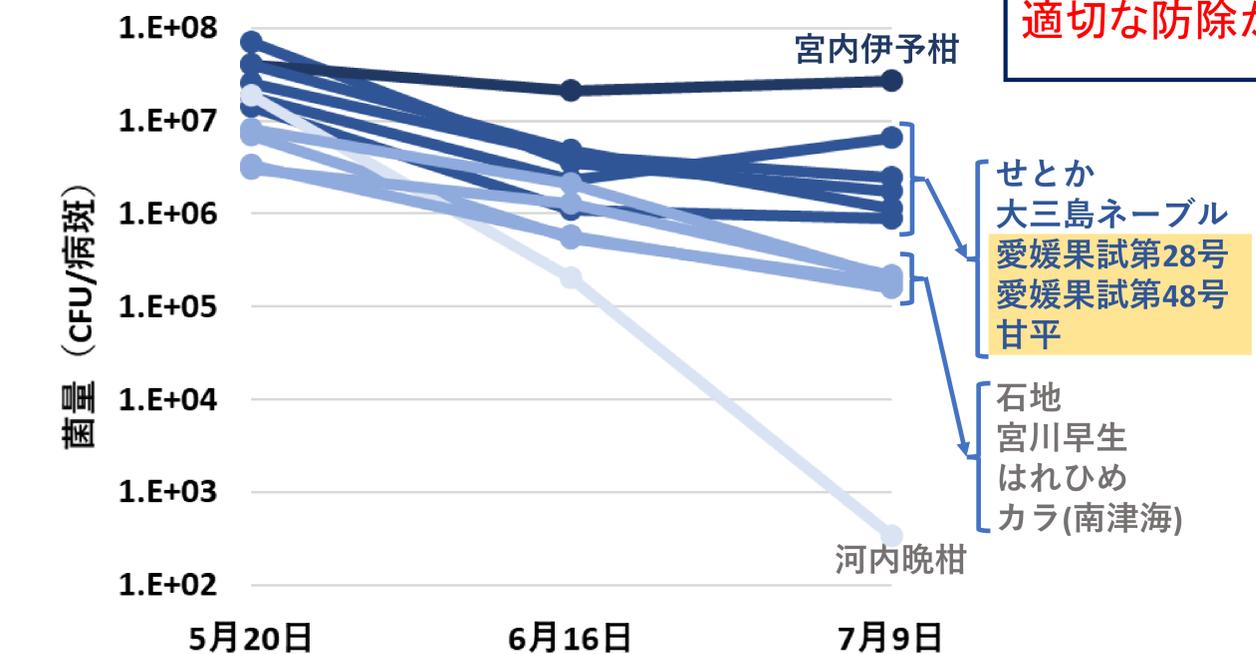
## ○病斑面積



宮内伊予柑は病斑面積、菌量ともに最大。

愛媛果試第48号(紅プリンセス)は、親品種(甘平・愛媛果試第28号)と同等の罹病性と考えられる。  
→かいよう病について適切な防除が必要。

## ○菌量



せとか  
大三島ネーブル  
愛媛果試第28号  
愛媛果試第48号  
甘平

石地  
宮川早生  
はれひめ  
カラ(南津海)

## かいよう病の品種間差

### ○接種による病斑径 (2012年)

品種	病斑径 (mm)
清家ネーブル	2.5
宮内伊予柑	2.4
河内晩柑	2.1
愛媛果試第28号	2.1
はれひめ	2.0
カラ(南津海)	1.9
甘平	1.9
せとか	1.7
宮川早生	1.3

### ○ほ場での発病 (2006年)

品種	発病葉率 (%)
カラ(南津海)	51.6
清家ネーブル	21.0
甘平	20.7
はれひめ	19.7
せとか	9.6
愛媛果試第28号	8.3
宮内伊予柑	4.9
河内晩柑	0.6

病斑面積では 2012年の病斑径調査と比較して、宮内伊予柑は類似の結果であったが、はれひめや河内晩柑においては異なる傾向を示した。接種72日後(7月9日)の病斑の菌量は、4つのグループに分けられた。今後は、ほ場での発病調査や評価方法の比較を行い、より効果的な栽培リスクの把握法について検討を行う。